

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和04年06月17日(金)

事務事業			救急活動推進事業			担当課		警防課	担当係	救急管理係	管理番号	4511	
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち			事業区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務						
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり			根拠法令 個別計画等	救急救命士法						
	小項目	2	消防・救急体制の充実										
	主要プロジェクト	0	(未使用)										
事業概要			救命率向上のため、救急救命士及び救急隊員に病院実習、研修等を実施することで、資質能力の向上が図られ、質の高い救急医療サービスを提供するものである。										
目的 ※何のために			質の高い救急医療サービスを市民へ提供するため。										
対象 ※誰・何を対象に			現任の救急救命士及び救急隊員。										
手段 ※どのように			病院実習、救急研修及び教育訓練を実施。										
成果 ※何を求めるか			救急救命士を含む救急隊員の資質向上を図る。										
執行体制			■ 職員 □ 一部委託 □ 全部委託 □ 指定管理 □ 市民ボランティア □ NPO等 □ その他()										
事務事業を構成する 予算事業			区分	款		項		目		細事業名		前年度決算額(円)	
			一般会計	9	消防費	1	消防費	1	常備消防費	救急活動推進事業		14,132,456	
本事業の 主な業務			・ 指導救命士養成研修					・ 埼玉県北部地域メディカルコントロール協議会負担金の支出					
			・ 救急救命士再教育病院実習					・ 救急救命士ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管病院実習					
			・ 救急救命士気管挿管病院実習					・					
			・ 救急救命士薬剤投与病院実習					・					
			・ 救急救命士就業前病院実習					・					
			・ 特別管理産業廃棄物収集運搬及び処理委託					・					

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
年度別計画			・指導救命士養成研修			・搬送待機ステーション設置		
事業費	予算（現額）	3,278,000	3,330,000	3,160,000	2,832,000	15,454,000	27,049,000	
	決算額	3,107,353	3,218,827	3,084,904	2,313,523	14,132,456	0	
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	11,178,000	24,134,000
		県支出金	0	0	0	0	541,000	0
		地方債	0	0	0	0	0	0
		他特定財源	1,135,000	1,230,000	1,187,000	858,000	886,000	752,000
		一般財源	1,972,353	1,988,827	1,897,904	1,455,523	1,527,456	2,163,000
人件費	従事職員数（人）	1.15	1.15	1.05	0.95	1.25	1.25	
	人件費相当試算※	8,945,850	8,949,300	8,254,050	7,729,200	9,702,394	10,164,185	
総事業費試算		12,053,203	12,168,127	11,338,954	10,042,723	23,834,850	37,213,185	

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	薬剤投与病院実習数	目標値	回	3	4	4	3	2	3	
		実績値	4	4	3	3	2	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			薬剤投与の座学終了者数により目標値を設定/病院実習数						
	実績値の算出式									
活動指標 2	気管挿管病院実習数	目標値	回	2	2	2	2	2	2	
		実績値	2	2	2	1	2	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 病院実習数						
	実績値の算出式									
成果指標 1	薬剤投与認定救命士数	目標値	人	60	64	67	69	69	71	
		実績値	60	64	67	69	69	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 資格取得者数						
	実績値の算出式									
成果指標 2	気管挿管認定救命士数	目標値	人	17	19	21	21	23	25	
		実績値	17	19	21	21	23	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定 / 資格取得者数						
	実績値の算出式									
成果指標 3	救急医療情報システムアクセス用情報機器端末使用率	目標値	%	100	100	100	100	100	100	
		実績値	100	100	100	100	100	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			全ての救急活動に有効に使用できるよう目標値を設定 / 使用回数/救急出動件数						
	実績値の算出式									
成果指標 4	救急隊員1人あたりにかかる費用	目標値	千円							
		実績値	219	225	209	176	182	0		
	目標値の算定根拠/実績値の出所			社会的背景も影響するため、目標値は設定できない。 / 総事業費/救急隊員						
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	救急救命士が現場活動で特定の救急救命処置を行うには、実施基準などで定められた病院での実習を修了する必要がある。今年度は全て実習計画どおり実施でき、現場で救急救命処置が行える救急救命士の充実が図れた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	各種救急救命処置の資格要件を満たした救急救命士が、救急現場において適切な救急救命処置を行っている。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 倉上 正

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	救急救命士に必要な救急救命処置に係る資格要件を満たすための病院実習は、医療機関へ委託し連携は図れているが、救急業務全般に係る各種会議及び教育訓練について、タブレット端末を使用してペーパーレス化や出向に関する時間と費用を削減するため、開催方法を見直す必要がある。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 倉上 正

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和2年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	救急救命士の現場活動に重要な「救急現場学」を軸とする教育を救急隊員へ浸透させるため、段階的な教育プランを企画して実行すると共に、救急救命士の再教育や認定資格取得では医療機関での実習は不可欠であるため、継続した医療機関との連携体制を保持する。
達成状況及び その効果	救急隊員教育は、指導救命士が現場に則した訓練の運営を実施した。また、計画的に対象の救急救命士が救急救命処置の認定資格取得により救急体制の充実が図れたほか、救急救命士再教育の充実化を目的に、出場体制を維持した病院実習が行える派遣型救急ワークステーションの試行運用を実施し、本格運用に向け調整を行った。コロナ禍における搬送困難対策では、搬送待機ステーションを設営し適切な市民サービスの維持向上が図れた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救急活動推進事業	担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	4511
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input checked="" type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
		救急救命士の救急救命処置施行に係る資格認定、指導救命士を中心とした救急隊員への教育訓練及び搬送困難事案への対策は、市民へ最良の救急医療サービスを提供するため現状を維持していく必要がある。また、救急業務高度化を進展させるために必要な救急救命士の再教育では、医療機関と連携をした「派遣型救急ワークステーション」を運用することで、更なる充実強化が必要である。教育訓練などの座学については、タブレット端末を使用したペーパーレス化や出向に関する時間と費用を削減するなど、効率的な開催方法を行っていく必要がある。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	次長兼警防課長 高野 政之				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和4年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	コロナ禍の影響により、集合研修等の救急に係る教育機会が大幅に減少し、研修等は中止となるなど十分な効果が得られていない現状である。このことから、タブレット端末を活用してオンライン研修等を行い、救急救命士等の教育の推進を図る必要がある。また、救急業務高度化の進展の一環として、医療機関と連携して行う派遣型救急ワークステーションの運用を開始し、医療との接点をより充実させることで救急救命士等の資質向上に努める。
令和5年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	複雑多様化する社会情勢の中、救急救命士等に対する多方面からの要求は日々変化しており、救急救命士等の素養の維持向上が重要である。このことから、救急救命士再教育を含む救急隊員の生涯教育を充実させるため、派遣型救急ワークステーションの運用を確立すると共に、指導救命士が行う教育の質を向上させる。

8. 評価指標グラフ

